

令和2年 鳥羽市学校通学区審議会会議録

第3回

場 所 鳥羽市教育委員会 会議室

期 日 令和2年9月5日（土）

開 会 午後2時

閉 会 午後4時

出席委員	委員 荻原 彰 委員 中村 幸照 委員 東 和彦 委員 前田 陽一郎 委員 中村 晴恵 委員 勢力 昌宏 委員 宮崎 太資
欠席委員	委員 家田 晶代

教育委員会（説明員及び書記）	教育長 小竹 篤 総務課長 山本 勝利 学校教育課長 岩本 和也 （書記） 総務課庶務係長 天田 雄也
----------------	---

1. 会長あいさつ

(会長)

こんにちは。前回の会議から今日までの間に、委員のみなさんが周りの方とお話しされてきたこともあると思います。そういったご意見を活かしていただき、今日の会議に臨んでいただきたいと思います。よろしくお願いします。

2. 教育長挨拶

(教育長)

最近は天気が不安定な日が続いています。鳥羽東中学校は月曜日から修学旅行に出発する予定です。天候に恵まれるといいですね。例年、中学校の修学旅行は東京方面や沖縄方面に行きますが、今年はコロナウィルスの影響で東京や沖縄は止めました。鳥羽東中学校は和歌山方面へ行きます。他の学校も静岡等へ行先を変更しています。小学校の修学旅行は全て県内になりました。コロナウィルスの影響があるとはいえ、子ども達にはできる限り残念な思いをさせないようにして、しっかりと学校生活を過ごしてもらいたいと思っています。

今日は3回目の鳥羽市学校通学区審議会となりました。今回は特に中学校の校区再編について審議していただきたいと思います。

本日、資料もお配りさせていただいていますが、教育委員会の案としては、神島は本土への通学が困難なため、現状を維持していきたいと考えています。他の4つの中学校につきましては、適正規模、適正配置化を図りたいと考えています。定例教育委員会でも協議いたしました。長岡中学校の令和4年4月の統合については、地元からも要望をいただいております。なんとか実現していきたいと考えています。今の鳥羽東中学校のところに長岡中学校の生徒が通うという形を考えています。その後、通学等の安全面に配慮しながら、令和6年を目途に加茂中学校、答志中学校の2校を同様に今の鳥羽東中学校のところに移動して、学校名も新しく考え、新しい中学校を作りたいと考えています。校舎につきましては、今の物を補強しながら使っていく計画を立てています。答志地区へは、昨年度から何度かお伺いしてお話しさせてもらっています。昨年度1月に答志中学校統廃合の意向調査をしました。資料もお配りしていますが、未就学児から中学生までの保護者を対象にアンケートを実施しました。全体的には42%の方が、統合せず単独で中学校を維持したいと回答しています。約22%の人は統合もやむを得ないと回答しています。この調査結果をみますと、これから計画しようとしている令和6年の統合は難しいだろうと考えているところです。7月に答志地区の保護者のみなさまに説明に行かせていただきました。その際は、前回の計画はとりあえず白紙に戻しますが、新しい計画の中では令和6年を考えています。ただし、反対される方が多い場合、統合はできないと考えていますので、将来的に答志中学校の統合がどうあるべきかということをお聞きいただき、それをしっかり尊重していきたいという意思表示はしてきました。今後、答志中学校の生徒数の推移もみながら、答志地区の中でしっかり議論していただき、我々がそれを受けて統合計画に反映させていただきたい

とお話ししました。

教育委員会の案としましては、令和6年4月に、現在鳥羽東中学校があるところに校舎はそのままですが、新しい学校を作りたいと考えています。委員のみなさんには、この案に対してご意見をいただきながら、次回の答申に反映していただければと思っています。よろしくおねがいます。

3. 議事録の承認について

(会長)

前回の議事録についてご意見等ありますか。承認してもよろしいですか。

(委員)

はい。

(会長)

では承認とさせていただきます。

4. 議題

(会長)

私から、今までの会議で論点としてあがっていた内容を6つあげさせていただきました。

今日はそれに沿って議論できればと思っています。それ以外の項目がございましたら、適宜入れていただければと思います。

今日の会議を通して、教育委員会の案に対してこの審議会が合意することは、少し難しいと考えています。方向性を一つに絞ることは難しいですが、審議会の意見を羅列しても統合計画に反映することが難しくなると思います。方向性を一つに絞ることは難しいと思いますので、いくつかになるかもしれませんが、審議会としての一定の方向性は出したいと思っています。

本日は中学校区を中心とした議論を行います。「①地域とのつながり 地域の担い手を育てる地域への愛情」、「②人間性の育成（感性、対人的能力等）」、「③学力の育成 生徒の願いに沿った進路の実現」、「④通学」、「⑤部活動」、「⑥学校体制（教員の確保、教員の負担と教育の質、研修）」を論点に、みなさんからご意見をいただき、それを統括していきたいと思っています。どこからでも構いませんので、みなさんのご意見を伺いたいと思います。

まずは事務局より資料の説明をお願いします。

(総務課長)

資料に基づき説明

鳥羽東中学校からの直線距離を示した資料があります。直線距離で5 km、6 kmの円を書かせて

いただいています。今までの会議でも何度か説明させていただきましたが、国が中学生の通学の目安は6km以内と定めていますので、その目安としてください。鳥羽東中学校から6km以内には加茂の白木も十分範囲に入っています。鳥羽小学校がある堅神も小浜も全て入っています。これは直線距離での目安ですので、ルートによって少し距離は変わってきますが、基準としてみていただきたいと思います。

(教育長)

この6kmの範囲内はできれば自転車で通わせたいと思っています。それより外側については、離島は船で通います。石鏡地区は、現在スクールバスを用意してそれで通学しています。令和4年度からは長岡地区につきましてもスクールバスを配置して通学させたいと考えています。学校までの距離に応じて通学の方法を考えていきたいと思っています。

(総務課長)

また、各中学校の部活動設置状況と答志中学校の統合についてのアンケート結果もお配りしていますので、参考にしてください。

(学校教育課長)

資料に基づき説明

令和2年度中学校生徒数・管理職等一覧表について説明させていただきます。鳥羽市の中学生の人数は414名で学級数は26学級です。前回の資料でお示したように、学級数により職員の数が変わってきますので、表の中にある数字は学級数によって配置されている職員の数です。養護教諭と事務職員につきましては、現在、三重県では全校配置をいただいていますので、学校規模にかかわらず全ての学校に配置されています。しかし、神島中学校は、養護・事務の欄が空白となっています。これは、新校舎を建設し、職員室が一つになった小中併設校ですので、神島につきましては、小学校に養護教諭と事務職員が配置されています。小中学校合わせてそれぞれ1名ずつの配置ですが、子ども達には影響なく過ごしてもらっています。加配等の欄には県教委からの様々な加配が記載されています。免外解消というのは免許外担当解消教員のことで、学級数による定数だけでは、全ての教科の教諭を配置することができないため、特に技能系の教科につきまして加配されています。例えば、答志中学校は免外の非常勤が2人入っていますが、これは音楽と美術の教員です。神島中学校は、免外の常勤の講師がいます。これは理科の教員です。加茂中学校の免外解消の非常勤は音楽の教員です。また、長岡中学校は、免外の非常勤が3名配置されていますが、技術・音楽・美術の教員で、概ね技能系の先生方は非常勤で入っていただいている状況です。

学級数が少なくなればなるほど、中学校の9教科全ての教員を常勤で配置することが難しくなります。非常勤の先生が、その授業の時間だけ週に4時間等、学校に来ていただくこととなります。非常勤の先生も配置できない場合は、他の先生が免許を持っていなくても、臨時の免許を発行することにより、家庭が得意な先生が家庭を教える等の対応をしている学校も出てきていま

す。このような状況で市内の中学校が学校運営をしています。

(1)通学区についての審議(中学校の通学区を中心とした審議)

(会長)

ご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

①地域とのつながり、地域の担い手を育てる、地域への愛情

(委員)

様々な地区の方とお話しをさせてもらって、私は、統合することは悪いことではないと思います。将来の日本は子どもが減っていく一方なので、統合の方に道を持って行くのはとてもいいと思います。でも、地域が学校を残したいという意見もよく分かります。自分の母校を残して、自分の地域で子ども達を見ていきたい気持ちも分かりますが、子どもからみれば、どこの学校に通うことになっても喜んで行くと思います。

(委員)

元々、中学校は鳥羽東中学校に通うと決まっていたら何も思わないと思いますが、自分は、自分が育ってきた環境が一番いいと思っています。答志の気性もあるとは思いますが、現状をみると令和6年4月の統合は難しいと思います。反対が多ければ統合はしないということですので、もう少し時間がかかると思います。10年後等に3～4人になってきたら、その時の保護者がどう考えるかということだと思います。答志の保護者の中には、計画に載せること自体をやめてほしいと言う人もいます。今まで何年間か教育委員会と話をしている中で、かなりご立腹の方もいます。厳しい意見を聞きます。

ワカメ学習は統合しても鳥羽東中学校として参加するというお話しは聞きましたが、そうなるのと刈り取りの日だけ等になってくると思います。この学習には、漁業の後継者を育てる目的もありますので、年間通じて、種付けや水温検査等、ワカメ委員会の人との関わりがあり、鳥羽東中学校として参加するようになった場合、難しい面が出てくると思います。現在は中学生の人数が少なくなってきましたので、刈り取りは小学生も一緒にやってもらっています。学習自体はずっと継続されていますので素晴らしいことだと思います。

サラリーマンとして一旦島の外に出ていく人もいますが、しばらくして、漁師になるために戻ってくる人も結構います。PTA や町内の意見としては、やはり、地元で中学生までの時期を過ごすことは大切だと思います。

賛成の意見も少数ですがあると思います。ただ、先程の資料のアンケート結果は、前回の統合計画の統合ありきという時期に行っていますので、今は、統合賛成の数は減っていると思います。

(教育長)

前回、アンケート調査をした時は、令和4年4月に統合させてくださいというお願いをしている時です。全く白紙からということではなく、計画を作りましたというお話です。今回は、一旦

白紙にしますと言っていますので、数字はまた変わると思います。ただ、先日お伺いさせていただいた時、答志の保護者同士で、将来どうしていったらいいのかということについて、あまり話し合いをしていないと感じました。いかがでしょうか。

(委員)

以前はそういった会議がありました。会長が変わってなかなか開催できていません。先日、教育長が来られる前に、小学校と保育所の保護者に集ってもらって、西川先生に統合するメリット・デメリットについてのお話を聞きました。色々な意見を聞きましたが、その時も反対派の人の意見ばかりでした。どちらかというとな賛成派という人もいるかもしれませんが、まだ前には出てきていません。賛成派が少数なので表には出てきていないと思います。賛成派が増えてくれば、おそらく、統合についての議論もできると思います。

(教育長)

先日の懇談会に行かせてもらった時に、最後に、こういう統合についての話は毎年してもらえるのかという質問をいただきました。それを聞くと、今は反対だけれど、将来的に不安は持ってらっしゃると思いました。生徒児童数の推移をみていると、これから小学校に入ってくる子ども達が毎年5人前後になってきます。そうすると、同級生が5人しかいないということです。その中で男の子が1人になったりすると、他地域の学校に通う可能性も出てきます。そういった不安もあると思います。不安な点を出しやすい雰囲気づくりが大切だと思います。

(委員)

学校が大きくなると、それぞれの地域の伝統文化の継承や、コミュニティスクールという考え方の範囲が広がるので不安だと思います。これまでの小規模校の場合、それぞれの地域で、学校・PTA・地域で様々な活動をして一緒に子どもを育ててきていたと思います。これが大きな学校になることで地域との関係が希薄になってくるのではと心配しています。

例えば、令和4年に長岡中学校が鳥羽東中学校に統合された後、くじら祭りや敬老会の行事等、今まで長岡中学校と地域と一緒にやっていた行事がどうなるのかと心配しています。

(教育長)

中学生が地域にきちんと入って、その伝統文化を守っていくということが理想的だとは思いますが、今回の統合計画では、小学校で地域学習を強化するというので、コミュニティスクールとしてなるべく地域に小学校を残していくように考えています。中学校は、理想的には地域の伝統文化を引き継いでいけるようにしたいのですが、実際、学年に5人位しかいない生徒が、地域の伝統文化を全部背負っていくのは荷が重すぎると思います。学年に30~40人位いればいいとは思いますが、本当に地元の子どもだけで伝統文化を継承していくことは、もう厳しい時代になってきていると思わざるを得ない状況だと思います。以前も申し上げましたが、相場で石神さんマラソンがある時には、長岡地区の子だけではなく、他の地区の子も誘って一緒に行ってもらった方がいいと思います。

(委員)

令和4年の長岡中学校の統合は、ほぼ決まっていると思いますので、それを見越して町内会では地域コミュニティの在り方を考えていきたいと思っています。今回の統合の話は、地域もある程度関わらせてもらいましたが、保護者の考え方のウエイトが大きく、令和4年となりました。

今までも、祭りを維持するために、女性をいれるとか学年を超えてとか、地域外の人を入れて等、試行錯誤を繰り返してきました。今後の子どもの数が何人ということは分かっていますので、その中で試行錯誤しながらやっていきたいとは思っていますが、もっと厳しい時代が来るとは思っています。

(委員)

子どもが減ってきているので、地域の伝統の全てを負わせるのは大変だと思います。地域で何年も守ってきた方々が、工夫していくしかないと思います。学校に頼って、学校ありきで考えると地域の事はできなくなると思います。

(委員)

全てを担わせるとは中学生には言っていない。ただ、祭があって、そこに参加して経験をさせてあげることが、大人の役目だと思っていますので、重荷になっているということはないと思います。

自分達も青年団の人数が少なくなっていて、青壮年部に手伝ってもらって活動している部分もあります。今いる人数でできる限りのことをする風潮があるので、人数が少ないからやめようという考え方はありません。

(委員)

自然になくなっていくものは仕方ないし、自然淘汰されるものもあると思います。でも、できる限りは地域を残せるように何とかしたいと考えています。つぶしに行く必要もないと思います。少人数の団体でも、自然となくなってしまうたらできなくなりますが、存続する限りは一緒に頑張るとするのがまちの役目であり、地域の役目だと考えています。

(教育長)

答志地区と相差地区は人口規模も同じ位でよく似ていると思います。ただ、陸続きか離島かという違いがあります。中学校が何の為にあるかということを考え、子どもの将来を考えていく必要があると思います。統合の話をする、ついついまちのために学校を残すという議論になります。これは当然大事なことです、一番肝心なことは、子ども達が、将来様々な職業に就いて社会生活を送る上で、中学校で何を学ばせたいかということだと思います。統合して多様な活動ができる環境を整えたいということが教育委員会の考えです。保護者が十分に考えて、子どもの将来にとって一番何がいいのかという選択をすることが求められていると思います。

(委員)

鳥羽海文化という言葉があるように、離島や沿岸地域では昔から海で仕事をしている海女や漁師がいて、海で生業を立てて過ごしてきたと思います。私は内陸部の加茂地区で生まれ育ったので、海で生計を立ててきた人達の生活は全く知りませんでした。以前、仕事で少し携わり、初めて知ったこともたくさんありました。鳥羽市内の大人の方達も、自分の地域の事はよく知っているとありますが、他の地域になると全く知らないことが多いと思います。今後、統合して生徒数が増える中で、鳥羽の文化、海と一緒に生きてきた文化ということ、ぜひ学んでいく機会があればいいと思っています。

去年、小学生の夏休みの宿題を海女文化に特化して、鳥羽高校と三重大学の学生がお手伝いしてくれる企画がありました。それは、広い世代間の教育ができていたと思います。今後、大きな中学校ができた際には、鳥羽をよく理解するための授業をしていただけたらと思います。例えば、鳥羽高校や三重大学等の外部の力を借りることで、子ども達がもっと深く知る機会になると思いますので、そういう新しい授業ができればいいと思います。

(会長)

鳥羽は海に関する拠点が狭い地域に集まっているので、海洋教育をする場所としては、とても適していると言えると思います。それは、ある意味、地域の非常に大きなセールスポイントになるのではと思います。

(教育長)

鳥羽は海のことを前面に出ることが多いですが、海は山や川とつながっています。加茂地区は、鳥羽の中では特異な農業地帯です。これは非常に大事なことだと思います。海を学ぶためには、山や川のこと、自分の生活のことも学ばないといけません。そうしないと、海的环境は変わらないと思います。

小学校では、各地域に密着して自分の地域を深く学び、中学校になったら市全体の事をしっかり学べればいいと思います。みんなでワカメの事を知る、加茂へ行って山の事を知る等、忙しくなるとは思いますが、必要なことだと考えています。

(委員)

長岡中学校を使わなくなった後の校舎等の利用について、市として何か考えがありますか。

(教育長)

これについては、地元を選択権があります。地元から使いたいと言っただけであれば、使っただけだと思います。地元が使わない場合は、市として何か活用方法を考えていきたいと思っています。他にもすでに使っていない校舎もありますので、これも課題として今後の活用について考えたいと思っています。

(総務課長)

地元から使いたいという話がない場合、教育委員会から声をかけることはありません。今から、地元で話し合っていたら、申し出ていただければと思います。

②人間性の育成(感性、対人的能力等)

(委員)

不登校の子への対応として、学校が近くにあれば、先生がすぐに顔を出してくれているのが、統合することで、電話になるかもしれないといった心配はあります。できれば顔を見て話ができればよいと思います。環境が変われば、不登校の子が学校に出てくる可能性もあると聞きましたので、良い面も行き届きにくい面も出てくるかと思っています。電話がテレビ電話になればいいかもしれないと思いました。

(委員)

私は少人数で中学校生活を過ごすことに、どんなデメリットがあるか理解はできません。大人数は良い、少人数は良くないということではないと思います。

(教育長)

私は経験上、ある程度の人数の中で、多様な価値観に触れながら中学校生活や思春期を過ごす、経験させるということは非常に大切だと考えています。たくさん人がいて、選択肢も多い中で中学校生活を送れるということは、その子の将来にとってすごく大事なことだと思います。部活動や、自分の興味のあることを自分で選ぶこと、そういったことを、この時期に社会人の予備段階として経験させたいと考えています。その経験が教育につながると考えています。

(委員)

人が増えると、自分より上手な子もいて、刺激になって、その子を超えたいという気持ちが芽生えたり、友達になれたりすると思います。こういった可能性が広がるのが、人数が多くなることのメリットだと思います。そういう経験をさせるのが中学校生活ではないかと思っています。いろんな可能性を子ども達に提供できればと思います。

(委員)

人数が多い方が活気はあると思います。10年程前の鳥羽東中学校は4～5クラスあり、行事になりますとすごく燃えていました。合唱コンクール等でも隣のクラスに負けたくないの、自分達で朝練等を自主的に行い、行事前になるとすごい活気がありました。1クラスの学校は、合唱コンクールでも真面目に一生懸命に歌いますが、活気となると鳥羽東中学校の方があったと思います。競争心がありました。人数が減っていくとできない行事もでてくると思います。部活動についても、ある程度の人数の中で、競争して、みんな上手くなっていくこともありました。競争がある一定の教育の質を生むことはあると思います。

(委員)

人数が少ない学校の良さはあると思います。好循環で回っていけば、全員がすごく仲良くなって同じ方向を向いて活動できて、素晴らしいと思います。でも、そうではない時、例えば対人関係で行き詰ってしまった時等は、居場所がなくなってしまうこともあると思います。

人数が増えることで、全く違う地域の生徒と関わる機会ができ、居場所を作ることができたり勉強に励めるようになったりする場合もあると思います。様々な地域からいろんな考え方を持った生徒と一緒に中学校生活を過ごすということは、多様性を学ぶ機会にもなりますし、今まで知らなかった他の地域のことを知る機会も増えると思います。今まであまり競争がなかった地域から中学校へ来て、3年間で色々活動しながら成長する中で、磨き上げていけるということが良いと思っています。

(委員)

統合することで、思春期の子ども達が今までと違う生活になって、心のバランスを崩してしまうことがあるのではと心配ではとしています。近隣の市町の話ですが、統合の時には、子ども達にあまり負荷をかけないために、チャイムの音等、些細なことについてもすごく配慮しながら決められていると聞きました。万が一、統合して、心のバランスが崩れてしまった子がいた場合、学校にその生徒をサポートしていただける体制があるのか心配です。

③学力の育成、生徒の願いに沿った進路の実現

(委員)

教員の数は定数を決められていますので、そのことを考えると学級数が多い方が正式な免許を持った専門の教員が教えられる機会が増えるので、子ども達にプラスになると思います。臨時免許で教えている教員の力が劣るというわけではありませんが、私の経験で言いますと、技術を任せられたことがあり、その時は一生懸命勉強して教えました。専門の先生だったらもっとできることがあるかもしれないと思っていました。

専門の先生は人数がいないと確保できない状況があります。技能系の教科の教員は、授業の日だけ学校に来ますので、子ども達にも負担をかけていますが、その先生方にも負担がかかっていると思います。それはデメリットの方が多いと思います。

(委員)

学力の面において、それぞれの小学校で1番の成績だった子が中学校へ来て、他にも賢い子と出会い、刺激になることもあると思います。また、授業で班学習をして、他の人の考え方に触れ自分の考えをまとめる機会もあります。色々な地域から来ている生徒の考え方に触れるので、学びも深まっていくと思います。少人数の場合は、班学習をしていても、毎回同じようなメンバーになってしまいますので、意見の幅が狭くなり深まりにくいこともあると思います。

④通学

(委員)

加茂中学校が鳥羽東中学校と統合して、白木から自転車で通う生徒が出てきた場合、国道 167 号線は交通量も多いので、船津の黄色い橋を自転車で渡るのは危ないという意見がありました。

(委員)

通学の範囲が広がると、大変になることもあると思います。

今、鳥羽東中学校では、安楽島小学校と鳥羽小学校の生徒が、自転車や徒歩で通学しています。職員がポイント毎に立って登下校の指導をすることもあります。今でギリギリの人数です。校区が広がるとカバーするのが難しくなると思います。

また、離島からは今は坂手島から来ていませんので、桃取と菅島から通学している生徒がいます。船の時間がそれぞれ違いますので、微妙に登下校の時間が違います。マリントーミナルからバスに乗ってきますが、その時間も少し違います。通常時はいいのですが、緊急時に突然下校させる時等に、バスの時間、定期船の時間を確認して、ちょうどいい時間がない場合、学校で留め置くか、マリントーミナルで誰か職員が付くか等考える必要が出てきます。自転車通学の生徒には誰が下校指導に行くか等考えることはたくさんあります。

今後、長岡中学校と加茂中学校、答志中学校が統合されると、通学範囲が広がり、通学方法の種類が増えると実務的な煩雑さが出てくると思います。動き出せば何とかなるかもしれませんが、咄嗟の時に、間違いない判断、指示が出せるかということと、そこに人員がいるのかということが不安な点です。

(委員)

鳥羽東中学校は、月曜日から修学旅行に行きます。今、台風が発生しているので、定期船が運行されるか心配しています。定期船が出ない場合や遅れた時の対応、鏡浦地区のスクールバスの生徒達の対応等、修学旅行の出発について話し合いをしました。どう動くか分からない台風の事を心配しているので不安です。校区が広がると、防災の観点からも生徒の安全や安心を守れるのかという不安があります。校区が狭ければ職員が危険個所等を把握しやすいですが、広がると網羅できずに、子ども達を帰してしまうのではという不安があります。

(教育長)

校区が広がることのリスクは当然あると思います。そのことについては、私達も非常に危惧しています。平地ばかりではないエリアなので一つに集めるということは運営上のリスクは高いと思っています。それでも、ある程度の規模の学校を作り、多様な活動をさせた方が、意義が大きいと考えていますので、今はそちらを優先して考えています。

(会長)

通学区が広がるリスクについては、みなさん心配されていると思いますが、シミュレーションのようなものはありますか。

(教育長)

統合後の計画としましては、長岡地区は新しくスクールバスを購入して運行する予定です。加茂地区につきましては、6 km以上離れている生徒は、公共交通機関での通学となります。鳥羽市は、通学に関する公共交通機関の料金は100%補助が出ますので、加茂地区の子もその対象になります。白木の子が電車で船津まで来て、船津駅から1.3 km位ありますが、そこから歩いて登校する等が考えられます。離島の子は、マリナーミナルに自転車置き場を確保できますので、希望者はそこに自転車を置いて学校まで自転車で通学してもらえようとする等、多様な通学方法を考えています。菅島や桃取の子も自転車置き場を活用してもらえればと思います。

(委員)

令和4年4月に、長岡の子が急にスクールバスで鳥羽東中学校に通うことになると、今まで家を出て5分位で学校に着いていたのに、バスで40~45分かかると思います。適応性があると思うので慣れるとは思いますが、急に環境が変わるので心配です。

(教育長)

不登校傾向の子は心配ですね。朝起きられなかったら、スクールバスに乗れず、親が送っていかないといけなくなる。先生もすぐに見に行けない。それは課題だと思っています。

⑤部活動

(委員)

鳥羽東中学校には剣道部はありません。生徒数、部員数が非常に少なくなって、部活動が正常にできなくなり、職員数も減ってきて複数顧問をつけることができない状況で、適正な部活動の数をさぐっていた時に、剣道部の在籍がいなくなったので、その年に募集を停止して廃部にしました。まち道場に通って練習している生徒がいて、そこの指導されている方から剣道の活動を認めてほしいと申し入れがありました。鳥羽東中学校単独では人数がいませんが、他の地区と合わせると団体が組める人数がいるそうです。鳥羽東中学校としては、フェンシングやサッカー、硬式野球等のクラブチーム等で活動している生徒がいますので、それと同じような形で認めています。剣道をしている子ども達も鳥羽東中学校のどこかの部活に所属して、剣道の活動がない日はその部活に行きます。中体連の時には、特別に、鳥羽東中学校から出場しています。

長岡中学校の柔道もそういった形です。加茂中学校にも剣道をやっている男子がいたと思います。

鳥羽東中学校の文化部は美術のみです。音楽は一切やっていません。長岡中学校は文化のカテゴリーにあるのはボランティアクラブです。長岡中学校の野球部は女子も入れます。男女合わせた野球部として活動しています。鳥羽東中学校のバドミントンの男子と卓球女子はありません。サッカーは女子の入部も認めています。

(委員)

答志中学校は、今はソフトボール部もチームとしては成り立っていませんが、小学校1年生～5年生の女の子を集めてソフトボールの指導を始めました。これは、答志中学校として、部活動を存続させていこうということの現れだと思います。

⑥学校体制(教員の確保、教員の負担と教育の質、研修)

(委員)

防災の観点からも教員を多く配置してほしいと思います。

(教育長)

教員の数につきまして、現在は鳥羽市に充てられた加配教員をそれぞれの中学校に振り分けています。中学校の数が減れば、加配教員をそこだけに集中して置くことができると思います。潤沢にはないとは思いますが、今よりは多少は人を増やすことができると考えています。

今は市内に中学校が5校ありますが、それぞれの規模があまりにも小さくなりすぎたと思います。鳥羽東中学校でも全国的にみたら小規模校です。小規模校が5つあるということについては、教育の質にも当然関わってくることで、リスクもあるとは思いますが、適正規模、適正配置化を進めていきたいと考えています。

施設整備についても、学校がまとまると予算を集中して使うことができます。予算に限りもありますので、そういった点でも充実できると思います。

【まとめ】

(会長)

色々ご意見をいただき、統合のメリット・デメリット等お伺いしました。方向性は、一つにはまとめにくいと思います。答志の立場からすると令和6年の統合は受け入れ難いということは、間違いないということですね。今後の子ども達の将来のことは考えていただきながらということですが、令和6年の答志中学校の統合は難しい方向性だと思いますので、鳥羽東中学校、長岡中学校、加茂中学校の3校に関しては、統合の方向で考えていいと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

答志地区で多かった意見としては、今後10年間は計画にも載せないでほしいということでした。まだ本当の少人数だとは思っていませんので、もう少し人数が減るまでは統合計画には載せないでほしいということです。もっと少なくなった時に、答志の中から統合の意見も出てくると思います。

(教育長)

答志を統合するかどうかということは、答志の中で話をしてもらいたいと思っています。新し

い統合計画の中に、適正規模、適正配置を図りたいという文言は、できれば入れたいと考えていますが、地域でしっかり意見を聞いて進めさせていただきたいと考えています。ただ、適正規模と言いますと、答志中学校は統合計画に入ってくるようになります。これは、全体の計画の中ではやむを得ないことではないかと思えます。お叱りを受けるかもしれませんが、ただ、強引な統合はしません。保護者の意見を尊重したいと思えます。

答志地区の保護者のみなさんと話して感じていたことは、今、統合の話が持ち上がっている鳥羽東中学校の様子をご存知ない方が多いのではということです。何年か前の荒れたイメージが強い方が多く、勘違いされていることもあると思えました。そのため、今の、鳥羽東中学校の様子を答志の保護者の方に見ていただく機会を作った方がいいと思えました。知らない中で、イメージだけでお話しされている方もいらっしゃるかもれませんので、改めて見ていただいて、積極的に交流していただき、知ってもらうことが大切だと思っています。その上で、その学校に行けるかどうかの議論をしていただければと思っています。

他の地区についても、加茂地区はまだ役員会でしかお話ししていません。その時の感触は悪くはなかったので、この審議会と並行して保護者の方にお話しさせてもらいに行きたいと考えています。鳥羽東中学校に関しても、当然お話をしていきたいと思えます。長岡地区は9月15日にお伺いさせていただき予定です。順次お伺いしたいと思っています。答志地区につきましては、前は保護者だけでしたので、今度は地区の方にもお話しさせていただき、教育委員会の立場を説明させていただきたいと思っています。そして答志地区の方の意見もお伺いさせていただきたいと思っています。

(会長)

では、3つの中学校の統合は進めて、答志中学校に関しては、適正規模適正配置を目指しながら保護者のみなさまと協議を重ねていくという形でいかがでしょうか。

統合というのは、すぐにはできません。何年も前から準備が必要になりますので、かなり先を見て話をしていけないといけないと思えます。

次回は答申案について議論したいと思えます。

ありがとうございました。

終了 16:00